

灰の水曜日の説教

金 大烈 神父 2009年2月25日(水)

《四旬節に向かって償いをしましょう》

何年か前、ある国で、放送局の主催により、貧しい人々人のための募金活動が行なわれました。

その放送局に、ある日、訪れた人から「私たちの会社で高額な募金をしたいのですが、いかがですか？」という申し出がありました。放送局の人は、感謝の気持ちを表しました。ただし、この話には「お金を募金する場合には、社長の名前を新聞や雑誌、テレビで流してほしいのです。」という条件がついていました。放送局の人は「匿名で募金をする決まりになっているから、それはできません。」と断りました。すると申し出た人は、「それならば持って帰ります。」と言って、そのお金をそのまま持って帰りました。対応をした放送局の人がショックを受けて、「何のための募金なのか」というタイトルの文章を書いたものを見たことがあります。

今日の福音(マタイ 6・1 - 6,16 - 18)で読まれた内容は、まさにそういうことだと思えます。人間には、「よいことをしたのを誰かに見てほしい、認めてほしい。優しくて立派だ、と言われたい。」と思う気持ちがあります。それはたぶん、私たち全ての人間に隠れている、ある意味では純粋な心かもしれません。

イエス様がおっしゃった「右の手のする(よい)ことを左の手に知らせてはならない。」(マタイ 6・3)という言葉は有名です。しかし、その言葉とは逆に、「今から右の手でよいことをするから、見てほしい。」と無意識のうちに思ってしまうのが、私たちの本音ではないでしょうか。

今日の福音の中では、ファリサイ派とか律法学者、偽善者と言われていますが、これは私たち普通の人間の心であることを意識しなければなりません。何かしたら "褒められたい" "励まされたい"、それが私たちの本当の心です。しかし、イエス様ははっきりおっしゃいました。「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意なさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。」(マタイ 6・1)「そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる。」(マタイ 6・4)と。みんなに知らせてしまうと、その報いをいただけないこととなります。やはり私たちは、弱さを認めながら、少しずつ少しずつ前向きに進むのが正しい信仰の道ではないかと思えます。

皆様、今日のミサが始まってから、聖木曜日の最後の聖晩餐(主の晩餐)のミサが終わるまでを四旬節と言います。四旬節というのは、言葉どおり四十を意味します。この四旬節(四十日間)をどのような気持ちで、どのような形で過ごすかによって、私たちが迎える復活祭がどのくらいの大きさになるかが決まるのではないかと思います。

原則的な話を申し上げます。四旬節の精神は何でしょうか。四旬節の精神は、やはり悔い改めることです。回心することです。しかし、その回心には必ずついてくるものがあります。それがなければ、

回心しました とは言っても、完璧な回心にはなりません。赦しの部屋に入り、罪を告白します。司祭は罪を赦す祈りをします。その後、償いをさしあげます。回心の印は、この「償い」です。償いのない悔い改めは嘘です。この四十日間、何を償わなければならないか、よく考えて、それを実践してください。

易しく言いますと、「たばこを四十日間やめます。」という人がいれば、それもよいことです。「いつも人を非難する癖があるけれど、四十日間は褒めることばかりします。」これも一つの償いです。「いつも家族に朝の挨拶もしないで、マイペースの生き方をしてきたけれど、四十日間は、出会う人にも挨拶をします。」これも一つの償いです。自分のためではなく、相手のために行ったことが結果的に自分にもよいことになることを償いと言います。

この四十日間が、イエス様の望んでいらっしゃることを実践できる、そういう恵みあふれる期間になっていただきたいと思います。

今日の答唱詩編（詩編 51・3+4、5+6cd）にこのように書かれています。

「わたしは自分のあやまちを認め、罪はわたしの目の前にある。

あなたがわたしをさばかれるとき、そのさばきはいつも正しい。」

素晴らしい祈りの告白です。罪はどこにありますか。罪は私の目の前にあります。遠いところから罪を探そうとしないでください。無駄使いです。罪は自分の中から探すのが正しい悔い改めです。人のことを悔い改めさせようとししないでください。これは、ある面白い話ですが、私たちは相手や他の人について、あの人を赦してくださいという余裕のある祈りをする暇がありません。自分のことでいっぱいです。回心とは、そのようなものです。

さあ皆様、どのような喜びを持って復活祭を迎えられるか、それは私たち、個人個人の四十日間の過ごし方にかかっていることを意識しましょう。

ありがとうございました。